

インターネットとエンターテインメント

1.エンターテインメント提要の現状

インターネットの黎明期、ARPANETでメーリング・リスト（ML）というブロードキャスト技術が発明されたとき、最初の大きなMLの1つは、SFファンのための「SF LOVERS」というMLだったことはよく知られている。1979年には、MUD（Multi User Dungeon）というテキスト・ベースのネットワークゲームがエセックス大学のRichard BartleとRoy Trubshawによって開発された。ネットワーク上でSFについて議論したり、ゲームを行うということは仕事とは関係がなかったが、それが止められることはなかった。

ネットワークが作り出す仮想の空間にサイバースペースという名称を与えることによって、その存在への社会的関心を高めるきっかけを作ったのは、1984年にウィリアム・ギブスンが発表したSF小説「ニューロマンサー」であった。また、ルーカス・フィルムが1989年に開発したネットワーク・ゲーム「ハビタット（Habitats）」は、サイバースペースを視覚的に提示するエンターテインメントの突破口を開いた。

米国や英国に登場していたインターネット・カフェが、1995年にわが国でもいたるところで作られ、酒場やサウナでもインターネットがアクセスできることを売りものとするようになっていく。インターネットのコンテンツを楽しむというよりも、無限にリンクされていくWWWサイトを巡るネットサーフィンと呼ばれる行為そのもの物珍しさもあり、娯楽として受け入れられ、インベーダーゲームが人気を博したときのような現象を呼び起こした。

こういった関心の高まりの中で、カナダでWWWサイトを紹介する定時のテレビ番組が放送され、「ディスクロージャー」「ザ・ネット」など、ハリウッド映画ではインターネットを取り上げた作品が増えてきた。わが国でも、パソコン通信を扱った「（ハル）」という映画が1996年3月に公開された。

誰でもが自由に発信できるところにアーティストが注目し、ロックグループのローリング・ストーンズは1994年、マルチキャスト・バックボーンでロックコンサートの中継した。同様な試みとして、わが国では1995年冬、坂本龍一が武道館で行ったコンサートをストリームワークスで中継した。デイヴィッド・ブレアの映画「WAX」はインターネットで流され、後に映画の補完をホームページで行うようになっていく。また、インターネットをコンテンツの流通機構としてではなく、データが可変で無限にリンクしていくといったメディア特性に注目したさまざまな試みが、モダンアートのアーティストによってなされている。

2.エンターテインメント利用の課題

インターネットはグローバルな展開を図れるものとして、多くのエンターテインメント関係の企業がWWWサイトを立ち上げているが、WWWサイトそのものの

でエンターテインメントビジネスにするためには、動画処理の問題などまだ機能的に不十分な点が少なくない。しかし、HotJava*やShockwave*などの新しい技術によって、ホームページでグラフィックスに動きをつけたりゲームが可能になった。

新しいメディアが立ち上がる時の定石どおり、ポルノグラフィーではさまざまな試みがなされている。かなり早くからインターネットで有料サービスを開始していた米国の「ハスラー」は、インターネットを通したライブのストリップショーを映像で提供している。

ポルノグラフィーは、多くの文化圏でそういった表現を禁じる文化的制度的規範があるため、逆にそういった表現の希少性を高め、見たいという意欲を煽ることになる。さらに言語や文化など関係のない人間の生理的なものに根ざし、普遍的価値を持つため、グローバルな展開を可能にするインターネットには向いている。そのため性的表現を許可している地域から、許可していない地域に一方的に流れるという現象を生み、問題を引き起こしている。

1996年に改訂された米国の通信法は、エクソン修正法案というインターネットのポルノグラフィーに対して、厳しい罰則を付けた制限をつけた。このことは、米国の憲法が保証した表現の自由に反するというので、法案を破棄させるための告訴が続いている。

1995年末、インターネットの開発者ロバート・メトカルフは、1996年にインターネットは崩壊するという予言を行ったが、その10の理由の最後に、次のように書いている。「インターネット上のポルノグラフィーに関する議論が沸騰するために、1996年にはポルノグラフィーのページはなくなっていだろう。これ以上にインターネットの崩壊を促進するものはあるだろうか」。

(浜野保樹)

HotJava

WWWブラウザの1つで、ブラウザが提供する通常の機能のほか、Java言語で記述されたアプリケーションプログラムを実行できる。

Shockwave

p. 120参照。



インターネットで中継された坂本龍一のコンサート



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp